

快適な畜舎環境づくりを!!

～新鮮な空気や水を取り入れましょう～



【豚編】

豚は汗腺が退化しており、汗をかいて体温調節ができません。しかも身体は厚い皮下脂肪で覆われており、暑さがとても苦手です。暑さが苦手ということは、夏は飼料摂取量が減少し、生産性が落ちること。暑熱対策を行い、大切な財産である豚を守りましょう。

一口に暑熱対策と言っても、方法は色々あります。屋根の暑熱対策は、計画的に経費をかけての取り組みとなりますが、まずは屋根下の熱い空気を追い出し、新鮮な外気を取り込むことが必要です。併せて体感温度下げのためにも、送風機や扇風機を効率的に活用しましょう。

また、体温調節の為に行う開口呼吸（あえぎ行動）は、体内から大量の水分を奪います。脱水により浮腫や腎不全、結果として細菌感染をおこしやすくなるなど様々な悪影響を及ぼしますので、冷たい新鮮な水が飲めるような工夫をお願いします。

そして、日中の対策も重要ですが、夜いかに早く昼間の熱気から家畜を解放してやれるかが夏バテ防止のカギになります。西日のあたる畜舎は夜遅くまで舎内温度が下がりにませんので、体力回復の時間を奪ってしまいます。すだれや寒冷紗、グリーンカーテンなどで簡単なひさしを作るなどの西日対策をお勧めします。

舎飼いの家畜は四六時中畜舎で過ごします。密飼いを避け、よりよい環境を作ってあげて下さい。



【鶏編】

鶏は東南アジアや中国南部を起源とする説が有ります。暑い国出身の鳥なのにもかかわらず、夏が近づくと暑さストレスにより、採卵鶏なら産卵率や卵質の低下、肉用鶏では増体の低下や死亡などにより経済的損失が大きくなるのも事実です。少しでも快適に過ごさせ、生産性を落とさないようにするために、暑さ対策を行いましょう。

まずは鶏舎内外の整理整頓です。余分なものは撤去し、風の通り道を作りましょう。鶏舎の除糞をまめに行い発酵熱を減らす、屋根に断熱材を設置する、散水、石灰塗布を行う、グリーンカーテンなどで直射日光を遮断する、なども効果的。ミストなどで鶏に直接散水する場合は扇風機などの併用をお願いします。餌やりはなるべく早朝などの涼しい時間に行いましょう。また、冷たくて新鮮な水を、いつでも飲めるようにしてあげてください。

鶏は汗がかけません、体温調節のため暑いときは開口呼吸（パンティング）を行いますが、ひどくなると、過呼吸を起して酸性である二酸化炭素が排出され過ぎるため、血液がアルカリ性に偏ってしまい免疫力低下等につながることもあります。そんな時は重曹を水やえさに 0.5～0.7%混ぜ調節すると効果的です。（金谷）